

ヘアピンレースを主体としたニットウェアの製作 (第1報)

井上拓子

ヘアピンレース (Haipin・Crochet) は鉤針編みの一種でU字型のヘアピンを使用して編んだ事から始まっている。U字型の2つに分れたフォークのうえで、成される事からその名をとっている。フォーク間で鉤針編みの技法をほどこし、左周りに回転させながら編み進めて行く。編み地はループが長く、帯状のブレードが出来る。ブレードを接ぐとショールやスカーフとして軽くて優美なファブリックを形成する。ブレードの広さはフォークの大きさによって調節する事が出来る。ループの止め方、ループの数によって、曲線美しい波模様を形成し、目的に応じて糸の太さとフォークの幅が釣り合いがとれた時美しい作品となる。用途は服飾用、室内装飾用などに利用される。

今回の習作では本来のループ同士の形成だけでなく棒編みを併用する時によりニットウェアの製作を試みる事にした。

1 材料と用具

習作ー1

イエイガーリボンヤーン50g×11個 ゲージ 18_M×20_R

リボン刺繍用糸 青20g 赤20g

DMC#5 刺繍糸NO677、NO471、NO355

習作ー2

FILATURA・DICROSA セラ50g×10個 ゲージ 22_M×25_R

ピンクボタン36個

習作ー3

イエイガー・モールヤーン50g×8個 ゲージ 12_M×15_R

習作ー4

モヘアヤーン 300g (メーカー不明、並太)

習作4点の共通材料

ヘアピン編機・鉤針3号・5号 とじ針小鋏・躰糸

製作方法

習作-1

黒ニットウェア (ドルマン・スリーブ)

製作・裾よりメリヤスで編み始める。リボンヤーンの為テンションに掛けたが、リボン特有の捻れは防げなかった。前身頃は棒針7号で編んだが後身頃は機械編み機3号で製作した。機械編みと手編みとの違和感はず、同ゲージで編む事が出来た。

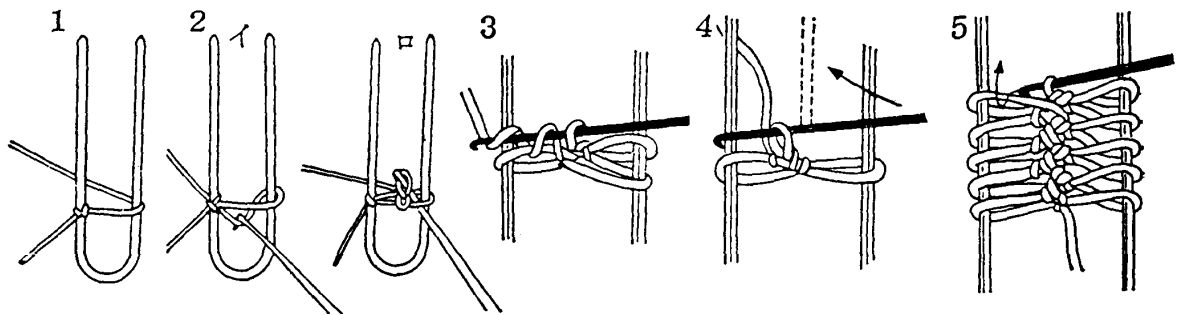


図1 ヘアピンレースの組織

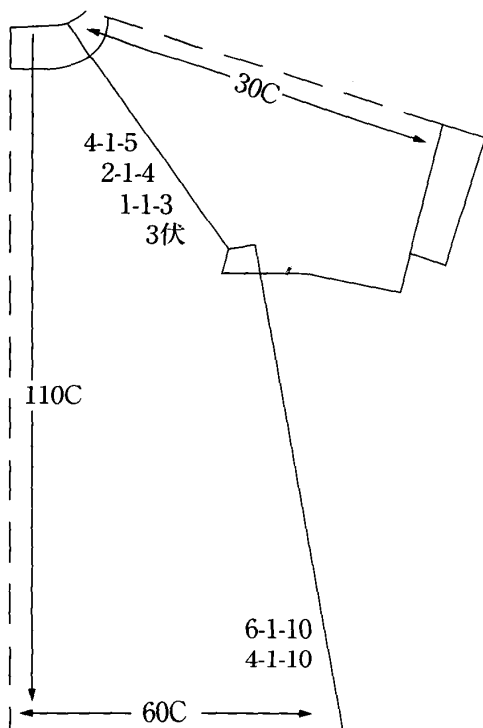


図2



写真①



写真② (前身頃)



写真③ (後身頃)

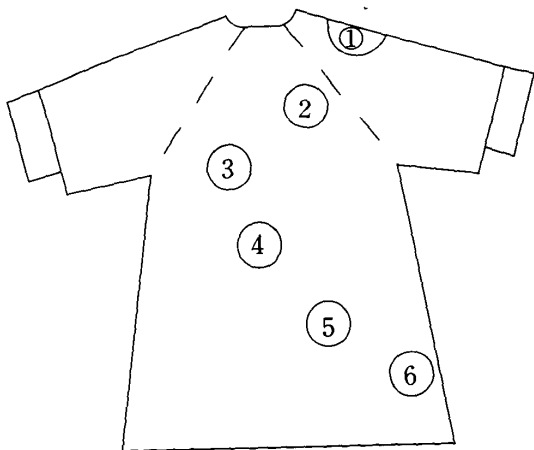


図 2

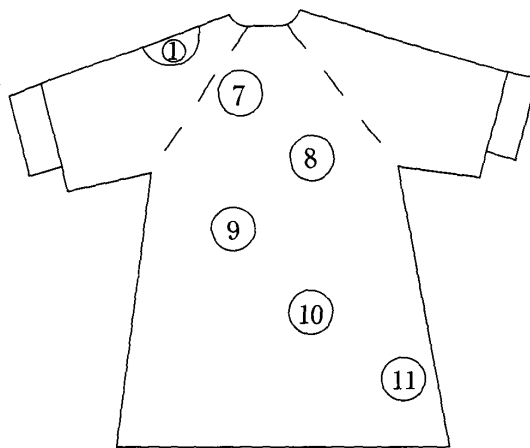


図 3

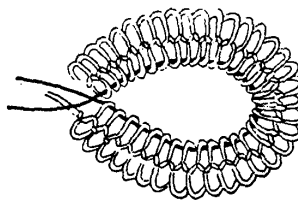
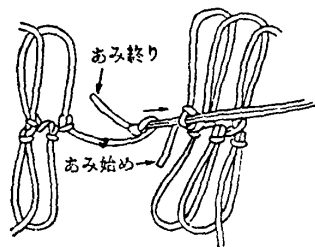


図 4

ゴム編は2号おとして5号で6cm編み止め、衿はハイネックで8cmにした。

モチーフの作り方は円型の為8の倍数目作り編み始めと編み終りの細編みを接ぐ方法である。モチーフの大きさは①から段々と小さくなる。円型であるので大きさはフォークに掛った時(半径)の2倍となる。(直径)モチーフはフラットな円形のものと同様に外測だけ処理し中央は凸型の2種類製作した。

モチーフ① (前身頃)

ループ46目、中心は2重の輪で(共糸)止めている。外測は刺繍糸でループを細編み、くさり編3の間隔で一周する。2段目は刺繍糸の色を変え、くさり3目のネット編みにする。3段目はくさり3目のネット編みであるが、細編みで止める目を1段目のループ目に刺す。この技法によりエジングのボリュームを押え、薄いリボンとのバランスがとれた。直径12cm

モチーフ②

ループ32目中心は処理せず立体的に、外測は刺繍糸でループを細編みで止め、くさり2目で一周する。綴方はリボンで巻きかがりで付ける。直径10cm

モチーフ③

ループ46目、フォーク間での細編を2cmづらす、左右のバランス1:3とした。これにより円型が綺麗に広がる事が出来る。中心を2重の輪で止め、外測は1段目をモチーフ②と同様に、2段目をネット編みにした。直径9cm

モチーフ④

ループ32目にし中心を処理せず立体的にする。外測は欧風刺繍の技法であるデゼーデージ・ステッチをする。この技法でより大きな凹凸が出来た。直径7cm

モチーフ⑤

ループ46目にし中心を2重の輪、外測をデゼーデージ・ステッチで止めつける。直径5.5cm

モチーフ⑥

ループ32目フォーク間を中心から1cmずらし左右のバランスを1:2とした。中心は処理せず、外測はデゼーデージ・ステッチで止めている。直径4.5cm

前身頃は半円を描く様にモチーフをデザインしてある。右肩から右裾にかけて大胆に置いてあるが、ニットが黒であるし、モチーフも円型に統一されているので異和感はない。

モチーフ⑦ (後身頃)

ループ56目、中心は処理してなく外測はデゼーデージ・ステッチである。ループの長さが5.5cmと長い為、中央でループが倒れてしまう恐れがあったが中心の細編部分をバック・ステッチで綴じ付ける事により解消出来た。直径10cm

モチーフ⑧

ループ48目、フォーク間の中心を2cmずらし2:3の分量で、中心を2重の輪で止めつけ外測を刺繍糸で細編み、くさり2目を繰り返す。綴じ方はリボンで巻きかがりをした。直径8cm

モチーフ⑨

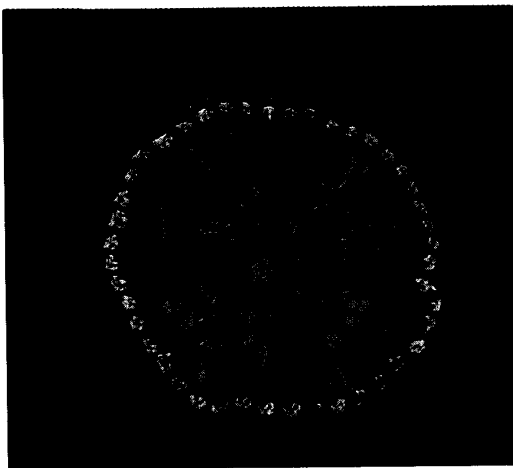
ループ32目、フォーク間の細編みは左右共に均一である。中央を処理せず、外測はデゼーデージ・ステッチで止める。直径6cm

モチーフ⑩

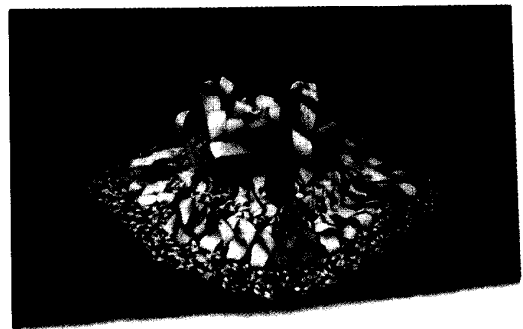
ループ48目、フォーク間の中心を1cmずらし2:1の分量とする。中央を2重の輪で止め外測はデゼーデージ・ステッチで止める。直径は5cm

モチーフ⑪

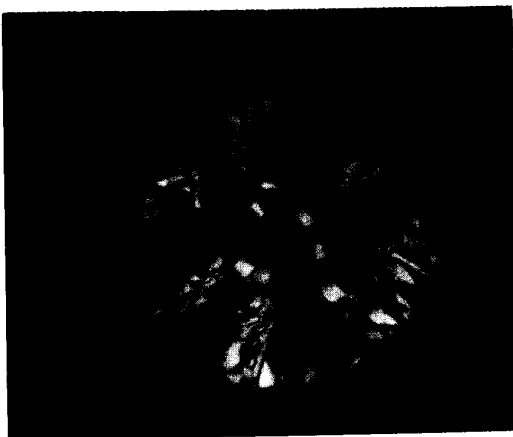
ループ32目、中央は処理せず、外測はループを細編み、くさり2目を繰り返す。2段目はく



写真④ モチーフ (フラット)



写真⑤ モチーフ (立体)



写真⑥ デゼーデージ

さり3目のネット編みである。直径3.5cm

後身頃は左肩から右裾に向けて稲妻模様にデザインされている。前身頃とモチーフ数は同じであるが、配置によって表情が違ってくる。前身頃と後身頃はアシメトリーにデザインされているが、身頃を広げると不規則な円型になる。

配列は赤と青のモチーフを交互に並べてみた。フラットなモチーフと立体的なモチーフも交互に並んでいる。

リボンヤーンで編んだニットは上下・左右に伸びやすくなるが、ヘアピンレースのモチーフを付ける事によって、伸び防止にも役立つ事が分かる。これは普通の毛糸と違いリボン刺繍用の糸が平らで、細編みで止めても通常の40%位、伸びにくいからであると思われる。

習作—2

裾用のヘアピンレースはフォーク6.5cmの最大に広げ、細編みで止めながらループ110目編む。本来であれば中心の細編みは始終一定の場所で編まれるが、今回の習作ではループ20目を1グループとし、その間を斜めに移動させ、波形のブレードを製作した。このブレードを2本作り上下対象に（シンメトリー）に接いだ。ここでもブレード同士の接ぎではなく、下のループを棒針に通して、5段メリヤスを編み上のループはメリヤス接ぎで止め付けた。2本目のループも衿に向かって増減なしで（袖ぐりまで）メリヤス編みをする。

袖は100目ヘアピンレースでループを作り袖山に向って編む（上ループ）下ループは5目お

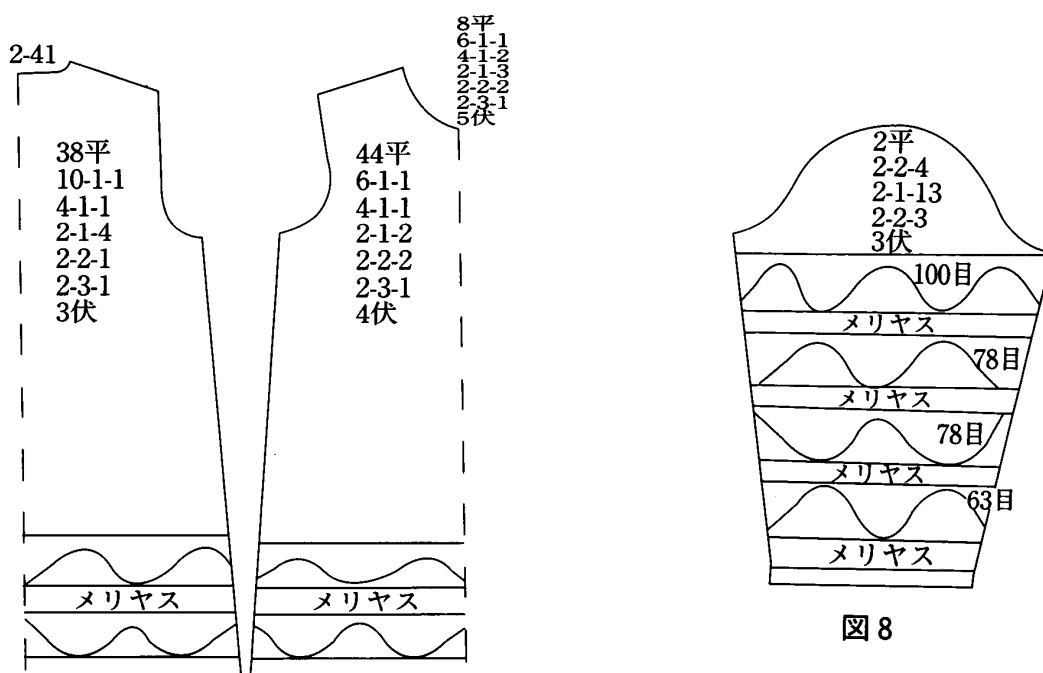
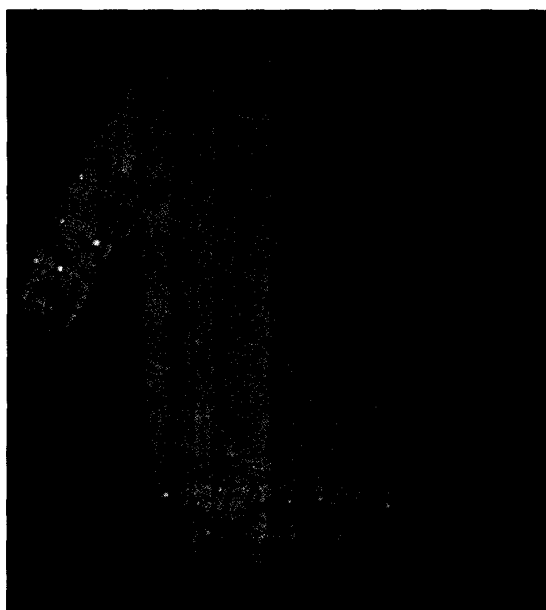
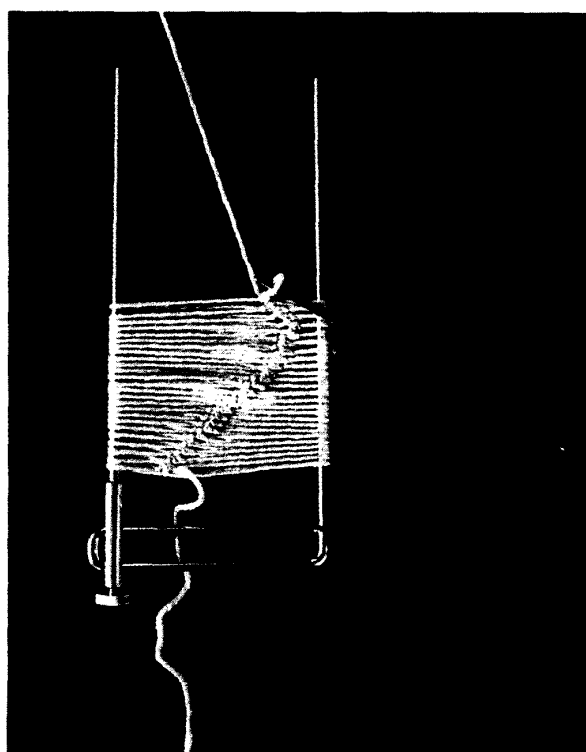


図7

図8



写真⑦



写真⑧

きに2回2目1度の分散減目をする。棒針に掛ったループは78目となる。そこから5段メリヤスを編む。(袖①のヘアピン)

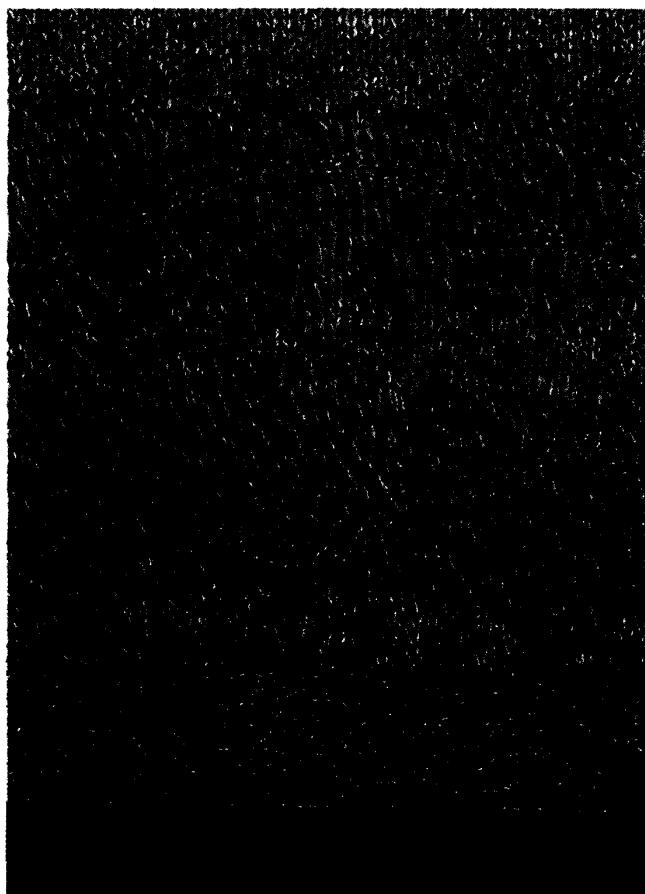
袖②のヘアピンレースはループ78目作り上ループと袖①のメリヤス編をメリヤス接ぎする。下ループは10目おきに2目1度の分散減目をする。棒針にかかったループは78目になる。そこから同様にメリヤスを編む。

袖③のヘアピンレースは78目作り袖②のメリヤスとループとをメリヤス接ぎする。下のループは今回減目せず78目棒針に掛けメリヤスを5段編む。

袖④はループ78目作り、袖③のメリヤスとメリヤス接ぎをする。下ループは袖口となる為7目に1回2目1度の分散減目する。

減目しループは68目となり、メリヤスを5段編む。今度は5号鉤針でループを細編みで拾う。この時も10目で1回分散減目し、袖口は63目となる。袖口は1段目は普通の細編みをするが2段目は下段の細編み間をすくい、右の引き上げ細編みとする。この技法により畝の様に横縞が出来、立体的でアクセントとなる。衿ぐりは1.5%増目で拾目し、袖口と同模様を3段する。伸び止め防止に後衿ぐりに引き抜きをした。

習作一2は'96年のディレクションカラーである、カラード・ナクレを採用し、グレーの従来の糸にセラミック感のあるシルバーのラメ糸を絡ませたものを使用した。カラード・ナク



写真⑨ 裾

レは光の効果により、デリケートな色彩変化をみせる、サイバー調の淡い色は今季のカラートレンドといえる。洗練された光沢を備えたファブリックはクリアでクリーンな表情に仕上げられる。

全体のフォルムはストレートであるがアームホールが大きくとり、クラシカルである。

反省点はヘアピンレースのブレードからメリヤスを編み始めた為、メリヤスの方向がまちまちになった。裾から編み始めるべきだと思う。

習作—3 ストール

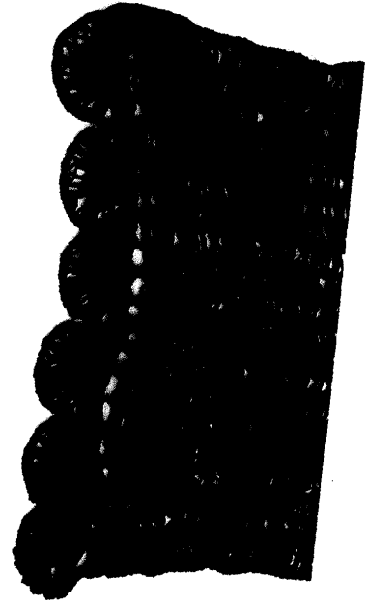
サイズ70c×200c ブレード11本

フォークを6cmに合わせ中心を引き抜きで編む。ループは250目を11本編み直線に並べる。習作—3はヘアピンレースだけの構成でブレード同士を組み合わせている。接ぎ方は鉤針による引き抜きで図の様にして2本のブレードを並べ鉤針でループの輪を1本ずつ、左右交互に引き抜いて接ぐ方法

エジングはループ21目にし、7目1組で細編みし、3組を内測とする。外測はループ1本



写真⑩



写真⑪

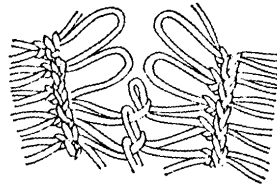
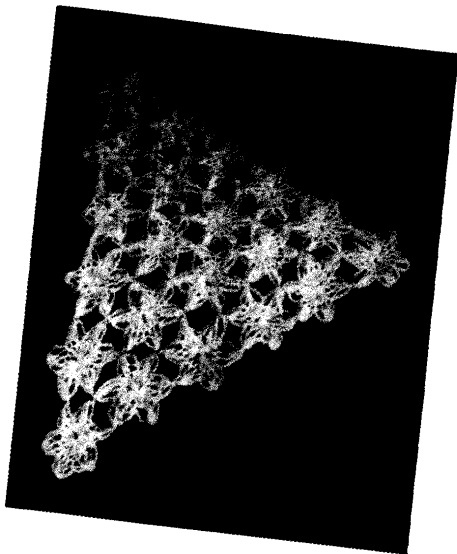
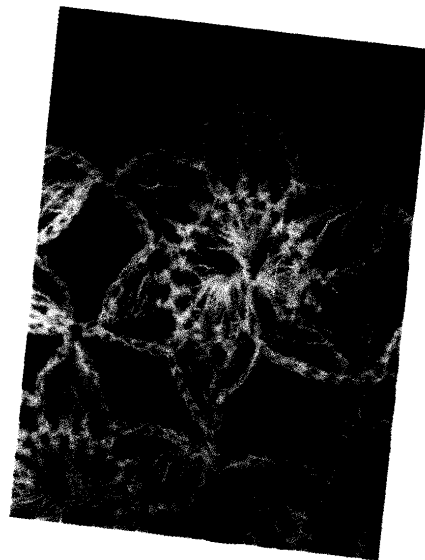


図9



写真⑫



写真⑬

ずつ細編みで止めくさり2目で半周する。半円のモチーフが出来たら、エジングとして、両端のブレードに千鳥かがりで綴じ付ける。

ヘアピンレースは本来、軽量の素材で行うのが普通であるが、太いモールヤーンでも、接ぎ方の工夫により、軽快で真冬にも耐えられる暖かいストールとして応用する事が出来る。又、習作一3での難点は全てのブレードをたてに接いだ為、出来上り寸法よりも30%の伸びが出てしまう。その解決法として、接いだブレード1本おきに中心の引き抜き部分を欧風刺繍の技法であるバックステッチを同糸でほどこした。これにより伸び率が10%に解消された。

習作一4 モチーフつなぎショール

モチーフ21個(直径23cm)

サイズ一辺120cmの三角形

フォーク6.5cmで中心を細編みし、ループ18目作る。糸はリボンヤーンと異って伸び率が高く18目でも円形を作る事が出来る。中心は6目ずつ取り細編みで止め、くさり1をし、又6目取る、これを3回繰り返して中心を作る。外測はループ3目取り、細編みでくさり6目し、ループの中心の細編みに引き抜きで止め、そこからくさり6目で立ち上り、ループ3目を取る。これを6回繰り返して6枚の花モチーフを作る。このモチーフ同士をくさり7目で接ぎ合わせる。止め方はモチーフを外表にし、くさり中心4目の所を引き抜きで止める。

ストールの形成は底辺を6枚・2段目5枚3段目4枚・4段目3枚・5段目2枚・6段目1枚とした、ピラミッド型とする。

モヘアヤーンを使用した事で毛足が長く絡み合いフェルト化する恐れがあったが、ループを18目と少なくしたので糸間に空間が出来た。又毛足の長さが利点となり18目という少ないループにもかかわらず、バランスの良い出来となった。

考 察

習作一1はメリヤス編み地に円形ヘアピンレースのアップリケを付け、アクセントとして利用した。今回は円形のモチーフであったが、ループの取り方により多角形を形成する事も可能である。又、モチーフの配置の仕方によりデザイン的にも、まったく違った表現が出来る事が分かる。ニットウェアが黒の無彩色の為どんなさし色も可能であると思っていたが、11個のモチーフを使用するとなると色同士がぶつかり合い、調和がとれなくなる事がある。

写真でみるとドルマンスリーブで肩が下がっているが着用した時には袖丈分が短くなりバランスがとれる様、計算されている。

習作一2はヘアピンレースのブレードからメリヤスを編み出し、トリミングとして、はめ

込んでみた。直線接ぎだけでは変化に乏しくなる為、フォーク間の細編みをスライドさせ、ジオメトリック模様とうまく曲線が出た。ラメ糸を入れたが少々華やからに欠ける為、グレーの補色で、ピンクのボタンをブレードの間のメリヤス地にちりばめた。ボタンによってポイントが出来、ポップで軽快な表現が出来た。

習作-1はカジュアルな作品となったが、習作-2はフェミニンな印象で、裾と袖の透け模様が効果的である。

習作-3はヘアピンレースのみを使用し、ストレートのブレードと半円の組み合わせである。ブレード中心の細編みとループの組み方で細かい縞模様が出来、シンプルであるが、繊細な表現である。縁編みは半円のエジングで女性らしさが現われていて効果的に思う。直線と曲線との相乗効果が表現出来た。

習作-4はクロッシェレースのモチーフつなぎの要領で製作した。6枚の花びら模様でフェミニンであり、和装・洋装どちらでも着用出来る作品となった。

今回ヘアピンレースを主体としたニットウェアの製作にあたり、今まで考えていたブレード同士の接ぎ合わせる、直線的な作品を多く製作したが、止め方の工夫により、応用範囲が広がり、様々な作品へとつながる事が確認出来た。

又、ヘアピンレースは鉤針の流れをくんでいる事、歴史的にまだ浅い事などは分かったが、起源や発祥など詳しい事を知る事が出来なかった。これを、これからの課題とし、ヘアピンレースの啓蒙に努めたいと思う。

今回の紀要にあたり、本学教授の桜井映乙子先生のご指導を頂き深く感謝いたします。

参考文献

建帛社 手芸

(本学助手補)